「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」研究発表会
平成 29 年度 第 2 回研究発表会 「指示詞・代名詞（本土諸方言）」11:40-12:20

千葉県南房総市三芳方言の指示詞・代名詞

佐々木 冠 (立命館大学)

1. はじめに

千葉県南房総市三芳地区は 2006 年の平成の大合併で南房総市となって地域の一つである。大合併の前は、安房郡三芳村だった。

以下に示すデータは 2017 年 6 月 17 日、9 月 4 日・5 日、2018 年 2 月 8 日に行った調査によるものである。調査協力者は樋口正規氏である。同氏は、1950 年生まれの男性で、大学在学時（18 歳〜22 歳）以外は南房総市三芳地区に暮らしてきた生え抜きの方言話者である。三芳・方言の会のメンバーで『増間の昔話』を編集するなど、方言資料の保存と公開に取り組んでいる。

この地域の方言の文法の概略は以下の通りである。

音韻に関しては、千葉県の他の地域と同様、/k/の脱落が見られる（cuur-i-tĕaa=da「作りたいのだ」）。/g/の音声的実現は鼻濁音ではなく、閉鎖音の[g]である。促音の後ろに濁音や/r/や/j/が立つ（oQ=daa=do「私だよ」、koQ-ra「これら」、jaQ=jo「するよ」）。moraQ-taa「もらった」や先に示した oQ=daa=do の例からわかるように過去接尾辞-ta とコピュラの=da に母音の長い異形態がある。これら長母音を含む異形態は、先行する要素にアクセント核がない場合に用いられる。

先に示した「作りたいのだ」に対応する表現から明らかなように、この方言ではノダ文に「ノ」が出現しない。=gani（経験者格）、=gĕaa（与格）、=sa（方位格）が用いられる。これは千葉県全域、茨城県南西部、埼玉県東南部に見られる特徴である。所有格助詞と主格助詞はともに=ga である。対格助詞は=o である。主語と直接目的語はともに格助詞なしで表される場合がある。ただし、主語と直接目的語における無助詞表現の頻度は逆である。方言民話集『増間の昔話』のテキストには、=ga を伴った主語が 165 例あるのに対し、無助詞主語は 6 例しかない。一方、直接目的語の場合、=o を伴った例が 41 例であるのに対して、無助詞直接目的語は 104 例ある。その他の文法特徴については佐々木（近刊予定）を参照されたい。

以下に示す例文に逐語訳を付けることができなかった。議論に関与的な箇所を下線で示す。

2. 代名詞

表 1. 1 人称代名詞と 2 人称代名詞（非尊敬）

	1 人称	2 人称

独立形	ore (oN, oQ)	ware (waN, waQ)
附属形式	o-	wa-

独立形式のうち、促音で終わるものと撥音で終わるものは、単独では用いられない。一方母音終わりの形式（ore および ware）は単独で用いられる。促音で終わる形式（oQ, waQ）と撥音で終わる形式（oN, waN）は「弱まり語形」と考えられる。

附属形式が用いられる環境は、主格、所有格、与格である。これらの格を表す形態素は、起源的に所有格であるか所有格をその内部に含むものである。与格の「ゲ～ゲア」については、古典語の「がり」起源説（森下 1971）、所有格＋方位格（=e/i）説（井上 1984）、所有格＋「家」説（佐々木 2015）がある。後の 2 説をとるなら、与格も所有格を起源に含むことになる。(5)で oree という最終音節の母音が長母音になっている形式があるが、目的語が無助詞の場合、最終音節の母音が伸びる傾向がある。これは代名詞だけでなく名詞でも見られる傾向である。

1 人称の例

(1) so-N sigoto=wa {o-ga/oQ=ga} jaQ=do（主格）
その仕事は私がするよ。

(2) soraa {o-ga/oQ=ga} kasi=da=do（所有格）
それは私のお菓子だよ。

(3) soraa o-ga kĕaata zi=da=do（主格、連体修飾）
それは私が書いた字だよ。

(4) soraa oN=no kĕaa-ta zi=da=do（属格主語）
それは私の書いた字だよ。

(5) akira=ga {oree/oroo/oN=o/oQ=o} cure-te-Q-te kure-Q=do（対格）
アキラが私を連れて行ってくれるよ。

(6) so-N kasii o-gĕaa kur-aQsjaa（与格）
そのお菓子を私にください。

(7) oQ=to akira=ga ig-u=do. Cf. akira=to o-ga ig-u=do（共格）
私とアキラが行くよ。

(8) soraa {oN=daa=do/oQ=daa=do}（名詞述語）
それは私だよ。

2 人称の例

(9) so-N sigoto=wa wa-ga {jaQ/jaN}=daa=na（主格）
その仕事はお前がするんだね？

(10) soraa wa-ga kasi=da=do（所有格）
それはお前のお菓子だよ。

(11) soraa wa-ga kĕaa-ta zi=da=do（主格、連体修飾）

それはお前が書いた字だよ。

(12) soraa waN=no kĕaa-ta zi=da=do（属格主語）

それはお前の書いた字だよ。

(13) akira=ga waree cure-te-Q-te kure-Q=do（対格）

アキラがお前を連れて行ってくれるよ。

(14) so-N kasii wa-gĕaa kure-bee（与格）

そのお菓子をお前にあげよう。

(15) waQ=to akira=ga ig-u=daa=na（共格）

お前とアキラが行くんだね？

(16) soraa waN=da=jo（名詞述語）

それはお前だよ。

人に関する疑問代名詞にも同様の附属形式が存在し、分布は人称代名詞と同様である。

(17) so-N sigoto=wa da-ga jaQ=daa（主格）

その仕事は誰がするの？

(18) koraa da-ga kasi=da（所有格）

これは誰のお菓子なの？

(19) daree jakuiN=ni si-bee=ka（対格）

誰を役員にしようか。

(20) da-gĕaa kure-bee=ka（与格）

誰にあげようか。

(21) daQ=kara moraQ-taa=da=ka（奪格）

誰からもらったのか。

この地域の方言には他の千葉県内の方言と同様、斜格経験者を表す格助詞「ガニ」がある。この格助詞は所有格の「ガ」と位格の「ニ」が組み合わされたものである。この形式が後続する場合も人称代名詞と人を表す疑問代名詞は附属形式となる。以下の例文に見られる「ガニ」は、附属形式に後接しているので、格助詞ではなく接尾辞と見なすべきである。(22)と(23)にある=ganjaa は「ガニ」とトピックの=wa が融合した形式である。

(22) o-ganjaa wakaN-nĕaa

私にはわからない。

(23) wa-ganjaa wakaN-nĕaa

お前にはわからない。

(24) da-gani=mo jar-e-bee=ja

誰にでもできるだろう。

なお、位格の「ニ」には独立形の弱まり語形が前接する。

(25)　waN=ni kii-ta hanasi（位格）

お前に聞いた話。

接尾辞の前であれば附属形式が現れるわけではない。(26)と(27)に示すように複数接尾辞の前には 2 モーラある形式が現れる。

(26)　so-N sigoto=wa oN-dara=ga iQsjo-N {si-bee/jaN-bee}

その仕事は私たちが一緒にしましょう。

(27)　so-N sigoto=wa waN-dara=ga jaN=daa=na

その仕事はお前たちがするんだね？

この方言では双数と複数を接尾辞で区別することはない。1 人称における包含と除外の形式的な区別もない。指示物が双数であることは数量詞によって示す。なお、直接格では数量詞を格助詞の前の位置にも後ろの位置に配置することができるが、斜格では前の位置にしか配置できない。

(28)　so-N sigoto=wa {waN-dara hutaari=ga/waNdaraa=ga hutaari=de} jaN=daa=na

その仕事はお前たち二人がするんだね？

(29)　so-N kasi=o waN-daraa hutaari={N/gĕaa} kure-bee

そのお菓子をお前たち二人にあげよう。

副助詞が後接する場合、人称代名詞と人を表す疑問代名詞は独立形（の弱まり語形）で現れ、附属形式になることはない。

(30)　{oN/*o}=mo haNtĕaa=da

私も反対だ。

(31)　{waN/*wa}=mo haNtĕaa=ka

お前も反対か？

(32)　{daN/*da}=mo ko-nĕaa

誰も来ない。

(33)　{oN/*o}=dake=ga siQ-te-ru

私だけが知っている。

(34)　{waN/*wa}=dake=ga sira-nĕaa

お前だけが知らない。

なお、後述するように遠称の指示詞「アレ」を使って第三者を指すことが可能だが、この場合は、主格の要素が後接する構造でも附属形式は用いられず、独立形の弱まり形式が用いられる。

(35)　{aN/*a}=ga siQ-te-ru

あの人が知っている。

(36)　{aN/*a}=dake=ga siQ-te-ru

あの人だけが知っている。

表 2. 2 人称代名詞（尊敬）

独立形	oměaasaN
附属形式	---

2 人称代名詞の指示物が尊敬の対象の場合は、ware (wa-)は用いられず、oměaasaN が用いられる。この形式には独立形しかない。oměaasaN が現れる文の文末には標準語的な丁寧語「デス」が用いられる傾向にある。ただし、常に文末が標準語的になるわけではなく、(42)のような例もある（「あげましょう」になっていない点に注意）。

(37) so-N sigoto=wa oměaasaN=ga jar-aQsjaN=des-u=ka（主格）
その仕事はあなたがするのでしょうか？

(38) soraa oměaasaN=no kasi=des-u=jo（所有格）
それはあなたのお菓子ですよ。

(39) soraa oměaasaN=ga {kak-aQsjaQ-ta/ka-aQsjaQ-ta} zi=des-u=jo（主格、連体修飾）
それはあなたが書いた字ですよ。

(40) soraa oměaasaN=no {kak-aQsjaQ-ta/ka-aQsjaQ-ta} zi=des-u=jo（属格主語）
それはあなたの書いた字ですよ。

(41) akira=ga oměaasaN=o cure-te-Q-te kure-mas-u=jo（対格）
アキラがあなたを連れて行ってくれますよ。

(42) so-N kasi=o oměaasaN=gěaa age-bee（与格）
そのお菓子をあなたにあげましょう。

(43) oměaasaN=to akira=ga ig-aQsjaN=des-joo=ka（共格）
あなたとアキラが行くのでしょうか？

(44) soraa oměaasaN=des-u=jo（述語名詞）
それはあなたですよ。

表 3. 疑問代名詞・疑問副詞

	人	もの	場所	時間	選択（人・もの）	様式・様態	数（一般）	数（金額）	理由
独立形	daa, daQ, daN	ani, aN	doo	doN, doQ	icu	doojuu, azi, azjoo	juucu	juura	aN=de
附属形式	da-	---	---	---	---	---	---	---	---

人を指す疑問代名詞に独立形と附属形があることはすでに述べたとおりである。他の疑問代名詞および疑問副詞には独立形だけが存在する。

(45) so-N sigoto=wa da-ga jaQ=daa（人、主格）

その仕事は誰がするの？

(46) koraa daa=da（人、述語名詞）

これは誰なの？

(47) aN=ga hosi-i=da（もの、主格）

何が欲しいの？

(48) koraa aN=da（もの、述語名詞）

これは何なの？

(49) koo=wa doo=da（場所、述語名詞）

ここはどこなの？

(50) koraa da-ga kasi=da（人、所有格）

これは誰のお菓子なの？

(51) koraa aN=no=tame=N jaQ=daa=jo（もの、目的）

これは何のためにやるの？

(52) ko-N naka=de doN=ni aQ-ta=da（選択、人）

この中で、どいつに会ったの？

(53) ko-N naka=de doQ=ga icibaN hosi-i=da（選択、もの）

この中で、どれが一番欲しいの？

(54) waraa doojuu kasi=ga cuur-i-tĕaa=da（様態）

お前はどんなお菓子が作りたいの？

cf. {doo juu/azjoo-na} uci=N sumi-tĕaa=da

どんな家に住みたいのか？

(55) so-N zi=wa {aN=te/doohuuN} jom-u=da（様態）

その字はどう読むの？

(56) doo={e/sa} ig-eba ii=da（場所）

どこに行けばいいの？

(57) icu a-e-Q=ka（時間）

いつ会えるの？

(58) a-N hito=wa sacumaimoo juucu kure-taa(=kai)（数、一般）

あの人はサツマイモをいくつくれたの？

(59) so-N sacumaimo=wa juura(=da/si-Q=da)（数、金額）

そのサツマイモはいくらするの？

(60) aN=de soo=N taQ-te-Q=daa（理由）

なぜそこに立っているの？

疑問代名詞の複数表示は義務的ではない。(61)-(63)のように接尾辞-naNka を随意的に付けることができる場合もあるが、(64), (65)のように複数を表す要素を付けない方が自然な場合もある。

(61)　so-N sigoto=wa {da-ga/daN-naNka=ga} jaQ=daa（人、主格）
その仕事は誰などがするの？

(62)　{aN=ga/aN-naNka=da} hosi-i=da（もの、主格）
何などが欲しいの？

(63)　koraa {da-ga/daN-naNka=ga} kasi=da（人、所有格）
これは誰などのお菓子なの？

(64)　koraa aN=no=tame=N jaQ=daa=jo（もの、目的）
これは何などのためなの？

(65)　ko-N naka=de do-N kasi=ga hosi-i=da（選択）
この中で、どのお菓子が欲しいの？

『日本方言大辞典　下巻』小学館（1989: 1772）は、azi, azjoo などの母音始まりの疑問代名詞を持つ方言が話されている地域として以下の地域を挙げている：千葉県、神奈川県津久井郡、栃木県塩谷郡、群馬県多野郡、埼玉県入間郡、山梨県。国立国語研究所(1950)は、八丈島の方言としてアッデカ、アニなどの疑問詞を挙げている。余談だが、否定の応答（いいえ）は南房総市三芳方言と八丈島方言の両方で「アンガ」である。

3. 指示詞の体系

表 4. 指示詞

	近称	中称	遠称
独立形	kore (koQ, koN)	sore (soQ, soN)	are (aQ, aN)
附属形式	ko-	so-	a-

全ての指示詞に独立形と附属形式が存在するが、その使い分けは代名詞の場合とは異なる。指示詞の場合は附属形式は標準語の連体詞に対応するところにだけ現れる。所有格助詞が後続する場合（こいつの、そいつの、あいつの、これの、それの、あれの）、独立形の弱まり語形が用いられる（ただし、(71)は例外）。人とものはともに指示詞の独立形で指し示すことができる。

近称

(66)　so-N sigoto=wa koQ=ga {jaQ=jo/jaQ=do}（人、主格）
その仕事はこいつがするよ。

(67)　{koQ/koN=ga} hosi-i（もの、主格）
これ（サツマイモ）が欲しい。

(68)　kinoo juQ-te-taa=no=wa {koN/koQ}=daa=jo（名詞述語）
昨日言っていたのは、これだよ。

(69) koQ=kara ig-u=daa=jo（奪格）
ここから行くんだよ。

(70) koQ=ga naměaa siQ-te-Q=kai（所有格）
こいつの名前を知っているかい？

(71) ko-N hutaa doo=ka=na（属格）
これ（漬物用の瓶など）の蓋はどこかな？

(72) ko-N inu=wa {da-ga inu/daN=no inu}?（連体詞）
この犬は誰の犬？

中称

(73) so-N sigoto=wa soQ=ga jaQ=jo（人、主格）
その仕事はそいつがするよ。

(74) {soQ/soN}=ga hosi-i（もの、主格）
それ（サツマイモ）が欲しい。

(75) kinoo juQ-te-taa=no=wa soQ=daa=jo（名詞述語）
昨日言っていたのは、それだよ。

(76) soQ=kara ig-u=daa=jo（奪格）
そこから行くんだよ。

(77) {soN/soQ}=no naměaa siQ-te-Q=kai（所有格）
そいつの名前を知っているかい？

(78) soN=no hutaa doo=ka=na（属格）
それ（漬物用の瓶など）の蓋はどこかな？

(79) so-N inu=wa {da-ga/daN=no} inu（連体詞）
その犬は誰の犬？

遠称

(80) so-N sigoto=wa aN=ga jaQ-jo（人、主格）
その仕事はあいつがするよ。

(81) aQ=ga hosi-i（もの、主格）
あれ（サツマイモ）が欲しい。

(82) kinoo juQ-te-taa=no=wa aQ=daa=jo（名詞述語）
昨日言っていたのは、あれだよ。

(83) asoo=kara ig-u=daa=jo（奪格）
あそこから行くんだよ。

(84) aN=no naměaa siQ-te-Q=kai（所有格）
あいつの名前を知っているかい？

(85) aN=no huta=wa doo=ka=na（属格）

あれ（漬物用の瓶など）の蓋はどこかな？

(86) a-N inu=wa {da-ga/daN=no} inu（連体詞）

あの犬は誰の犬？

指示詞の複数表示は-domo または-ra で表せるが、複数の指示物がある場合でもこれらの接尾辞を用いない場合がある。指示物がものの場合の方が複数接尾辞を用いない傾向にある。

近称

(87) so-N sigoto=wa {ko-N muN-domo/koQ-ra}=ga {jaQ=jo/jaQ=do}

その仕事はこいつらがするよ。

(88) {koQ/koN=ga} hosi-i

これら（サツマイモ）が欲しい。

(89) koQ-ra=N naměaa siQ-te-Q=kai

こいつらの名前を知っているかい？

(90) koQ-ra=N hutaa doo=ka=na

これら（漬物用の瓶など）の蓋はどこかな？

中称

(91) so-N sigoto=wa soQ-ra=ga jaQ-jo

その仕事はそいつらがするよ。

(92) soQ=ga hosi-i

それら（サツマイモ）が欲しい。

(93) soQ-ra=no naměaa siQ-te-Q=kai

そいつらの名前を知っているかい？

(94) soQ-ra=no hutaa doo=ka=na

それら（漬物用の瓶など）の蓋はどこかな？

遠称

(95) so-N sigoto=wa {aN-ra/aQ-ra}=ga jaQ-jo

その仕事はあいつらがするよ。

(96) aQ=ga hosi-i

あれら（サツマイモ）が欲しい。

(97) aQ-ra=N naměaa siQ-te-Q=kai

あいつらの名前を知っているかい？

(98) aN=no huta=wa doo=ka=na

あれら（漬物用の瓶など）の蓋はどこかな？

4. 指示副詞

様態と場所の指示表現は以下の通りである。近称と中称で様態と場所が同音異義になっているのは、場所表現で/k/の脱落が生じたためである（koko > koo, soko > soo）。

近称

(99) soo=de něaa, {koo/koohuuN} jaN=daa=jo（様態）
そうじゃない。こうするんだよ。

(100) koo={ni/sa} koo（場所）
ここに来い。

中称

(101) soo si-N=no=ka, sira-naaQ-ta=jo（様態）
そうするのか！　知らなかったよ。

(102) {soko=e/soko=sa/so=ee/soo=e/soo=sa} ig-e（場所）
そこに行け。

遠称

(103) aahuuN si-N=no=ka, sira-naaQ-ta=jo（様態）
ああするのか！　知らなかったよ。

(104) asoo={e/sa} ig-e（場所）
あそこに行け。

5. 指示詞による現場指示と文脈指示

現場指示の用法は、基本的に標準語のそれと同じである。話し手の近くのもの(106)と話し手の後ろにあるもの(109)を区別することはない。また、聞き手の近くにあるもの(107)と聞き手にも話し手にも見えないもの(111)は同形である。

(105) araa cuki=da=jo
【あれ】は月だよ

(106) koree mi-ro
【これ】を見ろ

(107) soree mise-ro
【それ】を見せろ

(111) koo=de magaN-bee
【ここ】で曲がろう

(112) asoo=de magaN-bee
【あそこ】で曲がろう

(108) aree mi-ro
【あれ】を見ろ

(109) koree mi-ro
【これ】を見ろ

(110) sore moQ-tek-e
（箪笥のなかにある）【それ】を持っていけ

(113) soo=de magaN-bee

【そこ】で曲がろう

一方、文脈指示の場合は標準語と異なる区別が見られる場合がある。前の談話に出てきたものごとを指す場合(116)は標準語と同様、指示詞が用いられるが、前の談話に出てきた名詞句を指す場合(115)は、指示詞で受ける表現だけでなく、指示詞を付けて名詞句を繰り返す場合がある。

(115) {so-no hoN=wa tanosiiQ-ta/soraa omosireeQ-ta}

昨日本を買って読んだんだ。【それ】がすごく楽しかった。

(116) soraa {jooQ-ta=ne/iiQ-ta=ne}

A：うちの孫が結婚したよ　B：【それ】はよかったね

談話中に初めて現れるが、話し手と聞き手が共有しているものごとを指す場合、「あの」を挟まず、連体修飾節が被修飾名詞に直接前接する構造の方が適切であるという。

(117) kinoo oměaa=ga osee-te kure-ta hoN joN-da=jo

昨日あなたが教えてくれた【あの】本、もう読んだよ

話し手にわからない人を指す場合は、標準語と同様「その」に対応する要素を用いる。

(118) so-N hito=wa daa=da=kai

（相手が誰か知らない人のことを話している）【その】人は誰？

指示物がものでも人でもコ、ソ、アの系列では同じ表現が用いられる。

(119) koraa da-ga moN=da(=kai)

【これ】は誰のものか

(120) araa da-ga moN=da(=kai)

【あれ】は誰のものか

(130) soraa da-ga moN=da(=kai)

【それ】は誰のものか

(131) koraa doo=N ko=daa(=kai)

【こいつ】はどこの子どもだ

(132) araa doo=N ko=daa(=kai)

【あいつ】はどこの子どもだ

(133) soraa doo=N ko=daa(=kai)

【そいつ】はどこの子どもだ

疑問では指示物がものの場合と人の場合で異なる表現をとる。

(134) doQ=ga da-ga moN=ka wakaN-něaa

どれが誰のものかわからない。

(135) do-N hito=ga a-N hito=N ko=da(=kai)

どの人があの人の子供か？

6. 数

非尊敬代名詞の複数を接尾辞-dara で表し、尊敬代名詞および指示詞の複数を-ra で表すことがこれまでの例文から明らかである。また、疑問代名詞では随意的に-naNka を付けることによって複数を表す。

普通名詞の場合、名詞の意味により複数の表し方が異なる。人間・動物名詞の場合、以下に示すように-domo, -ra が用いられる。

(136) a-N kasi=wa a-N jaN-domo=ga kuQ-ta=N=ka

あの菓子はあの男たちが食べたのか？

(137) a-N kasi=wa a-N {inu-domo=ga/inu-ra=ga} kuQ-ta=N=ka

あの菓子はあの犬たちが食べたのか？

これに対して、もの名詞の場合、複数を表す接尾辞を用いない。

(138) asoo-N iQpĕaa ar-u sacumaimoo kui-tĕaa

あそこにたくさんあるサツマイモを食べたい。

擬似的例示（金水・工藤・沼田 2000、例によっては否定的特立か？）で、標準語で「など」が用いられる文脈では-naNka が用いられる。1 人称では oN に-naNka が接続する場合と、複数形 oN-dara から最終音節を削除した形式に-naNka が接続する場合がある。

(139) {oN-naNka=de/oNda-naNka=de} ii=N=kai（1 人称）

私などで良いのでしょうか。

(140) waN-naNka=ga sikai=o si-te kure-Q=to tasukaQ=keN（2 人称、同輩）

お前などが司会をしてくれると助かるんだが…。

(141) omĕaa-naNka=ga sikai=o si-te kure-Q=to arigatĕaa=keN(=ga)（2 人称、尊敬）

あなたなどが司会をしてくれるとありがたいのですが…。

(142) {aN-naNka=ga/are-naNka=ga} sikai si-te kure-Q=to {tasukaQ=keN/tasukaN=da=keN}（指示詞）

あいつなどが司会をしてくれると助かるんだが…。

(143) taroo-naNka=ga sikai si-te kure-Q=to tasukaN=da=keN（固有名詞）

太郎などが司会をしてくれると助かるんだが…。

(144) a-N jaro-naNka=ga sikai si-te kure-Q=to tasukaN=da=keN（人間名詞）

あの男などが司会をしてくれると助かるんだが…。

(145) a-N inu-naNka=de ii=N=ka（動物名詞）

あの犬などで良いのか？

(146) a-N sacumaimo-naNka=de ii=N=ka（もの名詞）

あのサツマイモなどで良いのかい？

(147) are-naNka=de ii=N=kai（指示詞）

あれ（サツマイモ）などで良いのかい？

参照文献

井上史雄 (1984)「埼玉県の方言」『講座方言学 5　関東地方の方言』飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編、169-202. 国書刊行会.

金水敏・工藤真由美・沼田善子(2000)『日本語の文法 2　時・否定と取り立て』岩波書店.

佐々木冠(2015)「関東地方の与格格助詞ゲの起源に関する一考察」『日本方言研究会第 100 回研究発表会

発表原稿集』77-80.
佐々木冠（近刊予定）「千葉県南房総市三芳方言」『全国方言文法辞典資料集(4) 活用体系(3)』方言文法研究会編.
森下喜一 (1971) 「方言にあらわれる格助詞「げ」について」『野州国文学』7: 21-35.